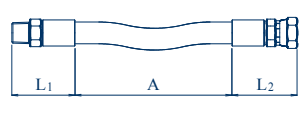
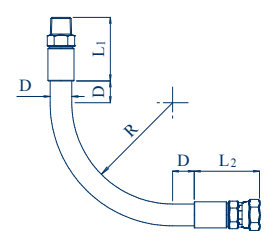
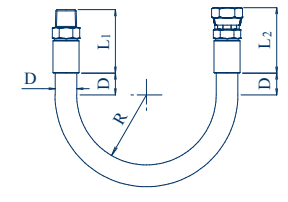
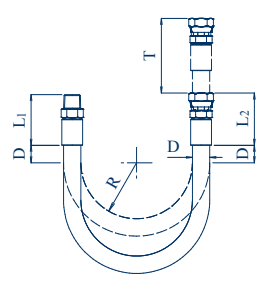


計算方法

下記の計算式を参考にして、適切なホース長さを算出してください。

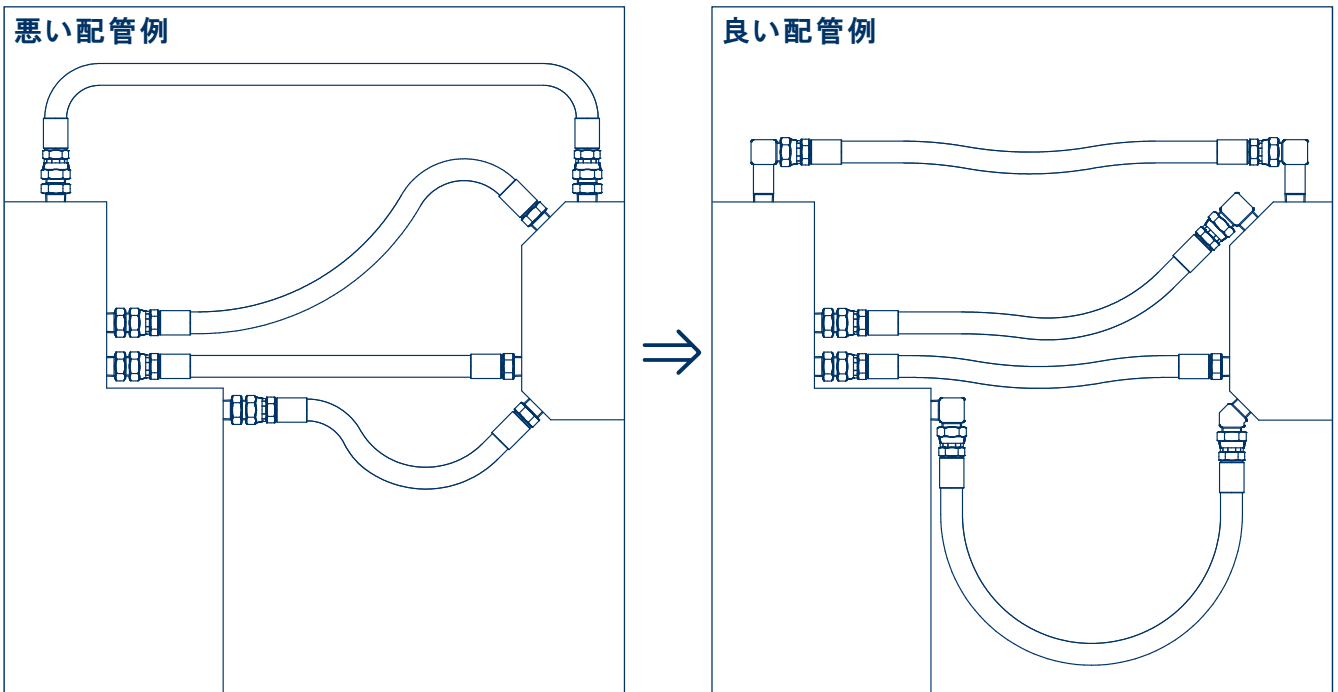
- 注意事項：① ホースは加圧時、3～4%の伸縮が発生する場合がありますので、その分を御考慮の上、算出してください。
 ② ホースが継手端部から急激に曲がらないように、必ず直線部分(ホース外径と同じ長さ)を確保してください。
 ※「ホース外径と同じ長さ」は最小値です。配管スペース上、余裕が有る場合は「D=ホース外径×2」が推奨です。
 ③ 計算値より短い長さにししないでください。引張応力や過度の屈曲により、ホースが早期破損してしまいます。
 ④ 必要以上に長くしないでください。折れ、または他の配管や装置との接触による磨耗の原因となります。

直線配管(固定)	L字配管(固定)	U字配管(固定)	U字配管(可動)
			
$L = 1.04A + L_1 + L_2$	$L = 1/2\pi (R+D/2) + 2D + L_1 + L_2$	$L = \pi (R+D/2) + 2D + L_1 + L_2$	$L = \pi (R+D/2) + 2D + L_1 + L_2 + T$
<p>L : ホースアセンブリ長さ A : 直線距離 L₁ : 金具長さ① L₂ : 金具長さ②</p>	<p>L : ホースアセンブリ長さ π : 円周率 R : 曲げ半径 D : ホース外径 L₁ : 金具長さ① L₂ : 金具長さ②</p>	<p>L : ホースアセンブリ長さ π : 円周率 R : 曲げ半径 D : ホース外径 L₁ : 金具長さ① L₂ : 金具長さ②</p>	<p>L : ホースアセンブリ長さ π : 円周率 R : 曲げ半径 D : ホース外径 L₁ : 金具長さ① L₂ : 金具長さ② T : 移動距離</p>

配管方法

下記の配管例を参考にして、適切な配管を行ってください。

- 注意事項：① ホースに余裕が無く、引っ張られたような状態にならないように配管してください。
 ② ホースが継手端部から急激な曲げとなってしまう場合は、エルボアダプター等を使用してください。
 ③ 配管時、ホースにねじれが発生しないように、ホースマーキングで確認しながら作業を行ってください。
 ④ 可動配管の場合は、可動開始後、ホースのねじれや継手端部から急激な曲げが発生しないように配管してください。
 ⑤ 配管時、ホースが他の配管や装置と接触してしまう場合は、外装スプリング等の外装保護材付を使用してください。



表記方法

ホース長さの表記方法は数種類あります。ご注文をいただく際、下記の表記方法にてご指示ください。

L : ホース金具の先端から先端までの長さです。
ホースアダプターは含みません。

AL : ホースアダプターなどの付属品もすべて含む総全長です。

HL : ホース切断長さです。

FL : ホースの有効部分長さです。

両端バンド金具の場合の取り付け角度(ローテーション)
基準(0°)とする金具を奥にし、垂直(下向き)にした状態で、測定する金具を手前にして、時計回りに測定します。

製作許容差

ホースアセンブリの長さ		許容差
—	500未満	+10 mm 0
500以上	1,000未満	+15 mm 0
1,000以上	2,000未満	+20 mm 0
2,000以上	5,000未満	+1.0 % 0
5,000以上	—	+2.0 % 0